

人気会計士が語る、小さな会社の経営“これだけ”（第2回）

小さな会社の経営は臆病なくらいがちょうどいい

2018.12.19

顧問先2200社を抱える会計事務所を率いる公認会計士、古田土満氏が語る小さな企業の経営のコツ。たくさんの経営者との付き合いを通して得た“これだけ”は知っておいてほしい実践的経営講座の第2回は、「本業」に徹底することの大切さです。

不況になると、多くの会社で売り上げが急激に減少し、資金繰りに困る会社が増えます。

私が多くの中小企業の決算書を見て思うのは、貸借対照表がバランスしていないということです。数字のバランスではなく、資金の運用と調達とのバランスです。「なんでこんなお金の使い方をするのだろう」と思うことが、たびたびあります。

特に、固定資産と借入金のバランスが問題です。土地・建物、保証金などの固定資産と、借入金がほぼ同額という貸借対照表をよく目にします。借入金のほうが多いケースもあります。

固定資産の部に計上されている資産は、減価償却費になるものが大半で、経費化されるものはそれほど多くはありません。一方、借入金の返済原資は基本的に利益になります。利益の蓄積が内部留保され、純資産額となります。

つまり内部留保が少ないということは、本業でも、投資しても今までもうからなかったということで、借入金の返済原資が今後もつけない可能性が高い会社といえます。

投資より本業が大切。借入金はとにかく減らす… 続きを読む